

論文審査の結果の要旨

氏名：安本 宗春

博士の専攻分野の名称：博士（生物資源科学）

論文題名：地域外資源を活用した観光による内発的地域振興のあり方に関する研究

審査委員：（主査） 教授 高橋 巖

（副査） 教授 水野 正己 教授 川手 督也

東洋大学教授 和田 尚久

本論文は、観光の持続的な発展を図るために、地域外資源(人材)の活用による内発的地域振興が必要であることを実証的に論証したものである。本論文では、まず先行研究サーベイと統計分析等により、観光が地域社会の維持・活性化をもたらす、人口減少時代に重要な地域振興手段となることを実態的・理論的に明らかにした。そして、地域外資本や事業者に大きく依存した観光開発は、地域への弊害をもたらす持続可能性への貢献が低いことをこれまでの各地の事例から指摘し、地域内関係者が主体となる「内発的観光振興」がその持続可能性の確立に必要であること、また、地域内関係者と地域外資源(人材)の共同による「観光による関係性」が求められるという仮説を立論した。その仮説を検証するため、これまでの事例を地域外資源（人材）と地域内人材との関係性から類型化し、鳥取県鳥取市鳥取砂丘を<関係性未構築タイプ>、熊本県氷川町（旧宮原町）と宮城県気仙沼大島を<一時的滞在型タイプ>、そして栃木県那須町と群馬県上野村を<移住タイプ>にそれぞれ位置づけ、詳細なケーススタディを行った。その結果、<関係性未構築タイプ>の鳥取では様々な弊害が出ていること、一方で、地域が持つ従来の伝統や文化・先人たちの取組みをベースにしつつ地域外資源(人材)を活用し、「観光による関係性」により内発的地域振興を構築した<一時的滞在型タイプ><移住タイプ>2つのタイプでは、いずれも、内外のネットワーク構築に成功し、地域外の人々の嗜好や動向へも対応しうる持続可能な観光開発へ導くことを解明した。

本論文は、これまで経験的にいわれていた観光における「地域外人材活用」の意義と役割を、内発的発展論を援用しながら学術的・体系的に明らかにしたものであり、厳しい環境が続く地域経済を観光により打開する上で、多くの示唆に富む研究である。各ケーススタディは、すでに査読付原著論文として6本が学術誌に掲載されており、学術的意義も高いものである。

よって本論文は、博士（生物資源科学）の学位を授与されるに値するものと認められる。

以 上

平成27年1月19日